

男女共通 ブレザータイプに 生徒考案エンブレムが彩り



道教大附属函館中が制服変更

【函館発】道教育大学附属函館中学校（小林真二校長）の制服が本年度から変更になった。従来のセーラー服と詰め襟から男女共通のジャケットへ移行。多様性の観点でスカートまたはスラックスを選択できるブレザータイプに切り替えた。スカートはスコットランドの老舗キルトメーカー「キンロック・アン

ダーソン社」によるオリジナルのタータンチェックをデザイン。生徒が考案したエンブレムとボタンと合わせ、気品あふれるデザインに仕上がっている。制服の変更は9年度に迎える創立80周年を見据え、4年度から検討を開始。5年6月、これまでの男子は詰め襟、女子はセーラー服とスカートの着用から一新することを決定し、保護者へ周知した。

ICT活用能力のネックタイプやスラックスが自由に選択できる同校の新制服

育成、探究学習の推進とともに投票で決定し、ことし3月に入権教育に力を入れているに卒業した小林優唯さんと黒滝晃雅さんが考えたものを採用している。

リボン・ネクタイ、スカート・スラックスを個に応じて選択できるため、新制服の対象となる1年生のうち、女子生徒の1割程度がスラックスを着用しているという。

制服の変更は9年度に迎える創立80周年を見据え、4年度から検討を開始。5年6月、これまでの男子は詰め襟、女子はセーラー服とスカートの着用から一新することを決定し、保護者へ周知した。

1年生の太田樹さんは「姉が着ていたセーラー服も憧れだが、自分に合った着こなしができるブレザータイプも気に入った」と笑顔。松渡洋大さんは「小学生の時、スラックスを履きたいと言っていたので、自由に選択できる環境は良いと思う」と話した。新制服は4月に入学した1年生から対象だが、希望に応じて上級生の着用も可能としている。9年度入学生で完全移行する予定。

ICT活用能力のネックタイプやスラックスが自由に選択できる同校の新制服

1年生の太田樹さんは「姉が着ていたセーラー服も憧れだが、自分に合った着こなしができるブレザータイプも気に入った」と笑顔。松渡洋大さんは「小学生の時、スラックスを履きたいと言っていたので、自由に選択できる環境は良いと思う」と話した。新制服は4月に入学した1年生から対象だが、希望に応じて上級生の着用も可能としている。9年度入学生で完全移行する予定。